

科目名 Course Name	刑事司法と福祉 Criminal justice and welfare	ナンバリング No.	I4-001				
年次	2年	期別	後期	単位数	2	授業形態	講義
担当者氏名	大熊 信成						
連絡方法	C-Learning で対応。または社会福祉棟 3F 研究室。オフィスアワーは授業担当時間以外。						
必修/選択	選択(社会福祉士国家試験受験資格取得必修)						
関連 DP	DP2, DP3, DP4						
授業の概要と到達目標	<p>刑事司法における近年の動向や制度を理解し、刑事司法におけるソーシャルワーカーの役割について学ぶ。さらに、刑事司法、少年司法、更生保護制度、医療観察制度、犯罪被害者支援について学習し、各種処遇プログラムの導入、少年、高齢者・障害者等の社会復帰・再犯防止施策について理解する。また医療観察制度や犯罪被害者支援についても理解を深めていく。</p> <p>① 刑事司法の近年の動向と制度の仕組みを理解し、説明できるようにする。                  ② 刑事司法における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割について理解し、説明できるようにする。                  ③ 刑事司法の制度に関わる関係機関等の役割について理解し、説明できるようにする。</p>						
授業の方法	基本的に講義形式で行うが、リアクションペーパーを実施し、グループ討議での振り返りを行う等アクティブラーニングの技法を取り入れる。また必要に応じて小テストを実施するとともに社会福祉国家試験対策も行い、知識の定着を図る。						
学習成果	L01						
	L02	①刑事司法の近年の動向と制度の仕組みについて説明できる。					
	L03	①刑事司法における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割について説明できる。 ②刑事司法の制度に関わる関係機関等の役割について説明できる。					
	L04						
課題に対するフィードバック	毎回の授業でリアクションペーパーを実施する。リアクションペーパーは振り返りを行い全員でシェアをする。また試験対策を行い、授業内で解答・解説を行う。						
教科書/参考図書	最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 10「刑事司法と福祉」第2版 中央法規出版 他 授業中に指示し、資料を配布する。						
履修上の留意点やルール等	一部視聴覚教材を使用し、内容をレポートで確認する。目的意識・課題意識を明確にして授業に臨み、口頭で述べたこともきちんとノートにとること。「権利擁護を支える法制度」の単位を修得しないと当該科目は履修できない。遅刻・早退・私語・居眠りは厳禁。事前・事後学習に費やすべき時間の目安は各回 180 分とする。						
担当教員の実務経験							

成績評価の方法と基準					
評価の領域	評価基準	学習成果の割合			
		L01	L02	L03	L04
授業参加態度	授業への積極的参加を評価する。個人ワークを自主的に行い、明確な課題意識をもって授業に臨むことができる。これらを総合的に判断する。		20		
レポート/作品	提示するテーマについて自分の言葉で述べる事ができる。最高評価である S は意欲的に課題に取り組んでおり、着手すべきテーマの趣旨に沿っていて、学習の成果が十分に示されている。		20		
発表					
小テスト					
試験	論述、選択記述式の定期試験を行い、評価する。論述は根拠(エビデンス)に基づき自分の言葉で述べられていること。			60	
その他					
合計			40	60	

回数		授業計画
1	授業内容	ガイダンス(刑事司法と福祉へのいざない、授業の進め方の説明)
	事前・事後学習	刑事司法と福祉の関係について自己の考えをまとめておくこと。ノートに記載すること。テキストp.2～17 配布資料を参照すること。
2	授業内容	刑事司法における近年の動向とこれを取り巻く社会環境① 近年の動向、刑事司法を取り巻く社会環境
	事前・事後学習	刑事司法を取り巻く社会環境についてテキストを参照にしてノートにまとめること。テキストp.2～17 配布資料を参照すること。
3	授業内容	刑事司法における近年の動向とこれを取り巻く社会環境② ソーシャルワーカーの役割
	事前・事後学習	刑事司法におけるソーシャルワーカーの役割についてノートにまとめること。テキストp.2～49 配布資料を参照すること。
4	授業内容	刑事司法① 刑法の原理など
	事前・事後学習	刑法の原理について意味を調べておくこと。ノートにまとめること。テキストp.66～85 配布資料を参照すること。
5	授業内容	刑事司法② 刑事事件の手続き、処遇
	事前・事後学習	刑事事件について意味を調べておくこと。ノートにまとめること。テキストp.66～85 配布資料を参照すること。
6	授業内容	少年司法① 少年法の概要、児童福祉法との関係 レポート「少年法について」
	事前・事後学習	少年法と児童福祉法の関係について調べておくこと。ノートにまとめること。テキストp.86～103 配布資料を参照すること。
7	授業内容	少年司法② 少年事件の手続き、処遇
	事前・事後学習	少年事件についてノートにまとめること。テキストp.86～103 配布資料を参照すること。
8	授業内容	更生保護制度① 制度の概要、生活環境の調整
	事前・事後学習	更生保護についてテキストを参照にしてノートにまとめること。テキストp.104～157 配布資料を参照すること。
9	授業内容	更生保護制度② 仮釈放、保護観察
	事前・事後学習	仮釈放・保護観察について意味を調べておくこと。ノートにまとめること。テキストp.104～157 配布資料を参照すること。
10	授業内容	更生保護制度③ 更生緊急保護、団体・専門職などの役割と連携
	事前・事後学習	更生緊急保護について意味を調べておくこと。ノートにまとめること。テキストp.104～179 配布資料を参照すること。
11	授業内容	医療観察制度① 制度の概要、審判・処遇の流れと内容
	事前・事後学習	医療観察制度についてテキストを参照にしてノートにまとめること。テキストp.180～195 配布資料を参照すること。
12	授業内容	医療観察制度② 関係機関・専門職等の役割と連携
	事前・事後学習	関係機関についてテキストを参照にしてノートにまとめること。テキストp.180～195 配布資料を参照すること。
13	授業内容	犯罪被害者支援① 犯罪被害者の法的地位
	事前・事後学習	犯罪被害者の法的地位についてテキストを参照にしてノートにまとめること。テキストp.230～251 配布資料を参照すること。
14	授業内容	犯罪被害者支援② 犯罪被害者支援に関する法
	事前・事後学習	犯罪被害者支援に関する法についてテキストを参照にしてノートにまとめること。テキストp.230～251 配布資料を参照すること。
15	授業内容	犯罪被害者支援③ 犯罪被害者支援に関する制度、団体・専門職などの役割と連携、授業のまとめ
	事前・事後学習	犯罪被害者支援に関する制度について自己の見解をまとめること。試験対策を行うこと。テキストp.230～272 配布資料を参照すること。

